

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
令和7年度第1回四国ブロック運営会議議事次第

日 時 令和7年7月8日(火) 16:00～
場 所 高知大学 朝倉キャンパス
理工学部棟第一会議室 理工学部2号館6階
参加者 別紙名簿のとおり
形式 対面及び遠隔(Microsoft Teams)開催

議 題

1. 各県の取組状況について **【議題資料1】**
 - ・各県のヒアリング実施状況
2. 四国経済産業局との協力体制について **【議題資料2】**
3. コミュニケーション支援ツール(Microsoft Teams)を用いた事務連絡の簡素化について **【議題資料なし】**
4. その他 **【その他資料1】**
 - ・「情報I」の対応について

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

令和7年度第1回四国ブロック運営会議出席者名簿

日時 令和7年7月8日(火) 16:00～

場所 高知大学 朝倉キャンパス
理工学部棟第一会議室 理工学部2号館6階

国立大学

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
徳島大学	デザイン型AI教育研究センター	センター長・教授	寺田 賢治	遠隔参加
	教養教育院	教授	大藪 進喜	
	デザイン型AI教育研究センター	助教	瓜生 真也	遠隔参加
鳴門教育大学	技術・工業・情報科教育コース	准教授	阪東 哲也	
	数学科教育コース	准教授	田中 晴喜	遠隔参加
	学習指導力・ICT教育実践力開発コース	講師	石川 勝彦	遠隔参加
愛媛大学	大学院理工学研究科	教授	平野 幹	
	大学院理工学研究科	教授	尾國 新一	
	データサイエンスセンター	教授	原本 博史	遠隔参加
高知大学	データサイエンスセンター	教授	佐々 浩司	
	理工学部門	教授	野村 昇	
	連携医学部門	助教	野村 與珠亜一国	
	農学部門	准教授	原 政之	
	データサイエンスセンター	特任助教	李 冠軍	
香川大学	大学教育基盤センター	センター長 教授	高橋 尚志	
	大学教育基盤センター	副センター長 教授	林 敏浩	
	大学教育基盤センター	数理情報・遠隔教育部長 教授	宮崎 英一	
	教育学部	准教授	白幡 泰浩	
	教育学部	講師	徳田 一起	
	大学教育基盤センター	特命講師(数理DS)	藤澤 修平	
	地域強靱化研究センター	特命講師	久保 栞	遠隔参加

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
令和7年度第1回四国ブロック運営会議出席者名簿

陪席者

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
高知大学	IoT共創センター	教授	岩尾 忠重	
	理工学部	講師	坂本 淳	遠隔参加

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
高知県立大学	総合情報研究センター	講師	根本 大志	遠隔参加

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
高知健康科学大学	健康科学部	学部長	竹林 秀晃	

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
高知工業高等専門学校	ソーシャルデザイン工学科	教務主事	横井 克則	遠隔参加

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
文部科学省	高等教育局専門教育課	専門官	今川 新悟	
	高等教育局専門教育課企画係	係員	宮崎 廉	

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
四国経済産業局	製造産業・情報政策課	係長	小松あゆみ	遠隔参加
	製造産業・情報政策課	係員	山崎 駿	遠隔参加

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
令和7年度第1回四国ブロック運営会議出席者名簿

陪席者

機関名	所属等	職名	氏名	遠隔参加
徳島大学	学務部教育支援課	課長	真名野 佳代	遠隔参加
	学務部教育支援課	副課長	白田 智子	遠隔参加
	学務部教育支援課	係長	山中 利恵	遠隔参加
鳴門教育大学	教務部教務課教務係	主任	工藤 宏介	遠隔参加
愛媛大学	情報推進課	課長	森田 誠	遠隔参加
	情報推進課	チームリーダー	新 陽寿	遠隔参加
	情報推進課	部課員	福田 陸	遠隔参加
	情報推進課	事務補佐員	西岡佐緒里	遠隔参加
	データサイエンスセンター	研究補助員	石川 由美	遠隔参加
高知大学	学務部学務課	課長	前田 薫	
	学務部学務課全学・共通教育係	係長	福島 愛加	
	学務部学務課全学・共通教育係	主任	晦日 研	
高知県立大学	教育・学生支援部	部長	土江 裕之	遠隔参加
	教務・学生支援課	課長	竹田 良和	遠隔参加
香川大学	教育・学生支援部	部長	藤沢 博伸	遠隔参加
	教育・学生支援部 修学支援課	課長	角田 圭美	遠隔参加
	教育・学生支援部 修学支援課	課長補佐	小寺 賢志	
	教育・学生支援部 修学支援課	再採用職員	澤井 直樹	
	教育・学生支援部 修学支援課	事務補佐員	岡垣 咲希	遠隔参加
	教育・学生支援部 修学支援課	事務補佐員	細川 世子	

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム四国ブロック内の大学・高専 一覧

(R7.6.24現在)

種別	校数	大学名	コンソーシアム入会状況	リテラシーレベル認定状況	応用基礎レベル認定状況	備考 ※新設学部の予定など
国立大学	5	徳島大学	○	R4年度認定	R6年度認定	
		鳴門教育大学	○	R4年度認定		
		香川大学	○	R3年度認定	R4年度認定	
		愛媛大学	○	R3年度認定	R6年度認定	
		高知大学	○	R4年度認定	R6年度認定	
公立大学 ※高知工科大学は高知県立大学と合併	4	香川県立保健医療大学	○	R5年度認定		
		愛媛県立医療技術大学	○			
		高知県立大学	○			
		高知工科大学	○	R6年度認定		R6年度 データイノベーション学群新設予定
私立大学	10	四国大学	○	R4年度認定		
		徳島文理大学	○	R6年度認定	R6年度認定	
		四国学院大学	○			
		高松大学	○	R5年度認定		
		松山大学	R7年4月入会			
		聖カタリナ大学	○			
		松山東雲女子大学	○	R5年度認定		
		高知リハビリテーション専門職大学				
		高知学園大学				
		高知健康科学大学	○			R6年度 新設
私立短期大学	11	四国大学短期大学部	○	R4年度認定		
		徳島文理大学短期大学部	○	R6年度認定		
		徳島工業短期大学				
		香川短期大学	○			
		高松短期大学	○	R6年度認定		
		せとうち観光専門職短期大学	○			
		今治明德短期大学				
		聖カタリナ大学短期大学部				
		松山東雲短期大学	○	R5年度認定		
		松山短期大学				
		高知学園短期大学				
高等専門学校	5	国立 阿南工業高等専門学校	○	R3年度認定		
		国立 香川高等専門学校	○	R4年度認定		
		国立 新居浜工業高等専門学校	○	R4年度認定		
		国立 弓削商船高等専門学校	○	R5年度認定		
		国立 高知工業高等専門学校	○	R4年度認定		
私立高等専門学校	1	神山まるごと高等専門学校	○			

36

32

20

5

未入会・未認定

香川大学における実践的なデジタル人材の育成・輩出に向けた産学官の連携

- 香川大学においては、実践的なデジタル人材の育成を図るため、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」とされる「**数理・データサイエンス・AI教育**」の推進として、**全学部を対象とした「リテラシーレベル（令和2年度～）」や「応用基礎レベル（令和3年度～）」のプログラムを開始。**
- また、**文部科学省の令和6年度大学・高専機能強化支援事業の採択を受け、情報系分野の拡充を図る**ため、今後、創造工学部の情報関連コース及び創発科学研究科（博士前期課程）の情報関連ユニットを強化し、学生の受入を増加予定とするなど、各種取組を推進。
- これらの取組により、**毎年デジタル人材（リテラシーレベル全学生1300名、応用基礎レベル200名、エキスパートレベル30名）の育成・輩出を見込んでいる。**卒業後就職した者の**3割程度は県内企業等へ就職。**
- 本学としては、産・官と連携し、**デジタル人材育成を通じて**地域社会に貢献できる大学を目指したい。

香川大学

■就職促進

・企業と学生の接点拡大

- ※企業説明会や学生との交流会、その他イベント（KadaiDXシンポジウム）
- ・就職支援ポータルサイトを開設（学生向けに企業や就活に関する情報を集約）するほか、**特に企業向けとしてデジタル人材育成に関する学部やコースを紹介**
- ・特にIT企業へのインターンシップの実施

■人材育成

- ・既存プログラムの更なる強化
- ・**社会人へのリスキリングプログラムの開発**（専門講座「Kadai DX塾」等）
- ・**実務家教員を活用したプログラムの開発と仕組みづくり**
- ・経産省施策の活用（ITパスポート、マナビDXクエスト、AKATSUKIプロジェクト、未踏事業等）

■その他

- ・数理、データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックにおける横展開、取組の拡大（**四国全体での相乗効果の創出**）

企業、経済団体

■検討・実施いただきたい事項

- ①リスキリングプログラムの活用
- ②学生との接点拡大に向けたイベント等への積極的な参加
- ③デジタル人材育成に関する意見交換の機会創出
- ④インターンの受入や実務家教員の派遣
- ⑤地元企業等への就職に誘う取組（貸与型奨学金等）
- ⑥学修歴（リスキリング教育含む）の適切な評価

行政（国・県等）、地域

■検討・実施いただきたい事項

- ①～③に加え、
- ④関連経済団体・企業への繋ぎ
- ⑤**デジタル人材育成に関する施策の紹介や予算化**
- ⑥**U・I・Jターン施策との連携**



地域に必要とされるデジタル人材像の確立

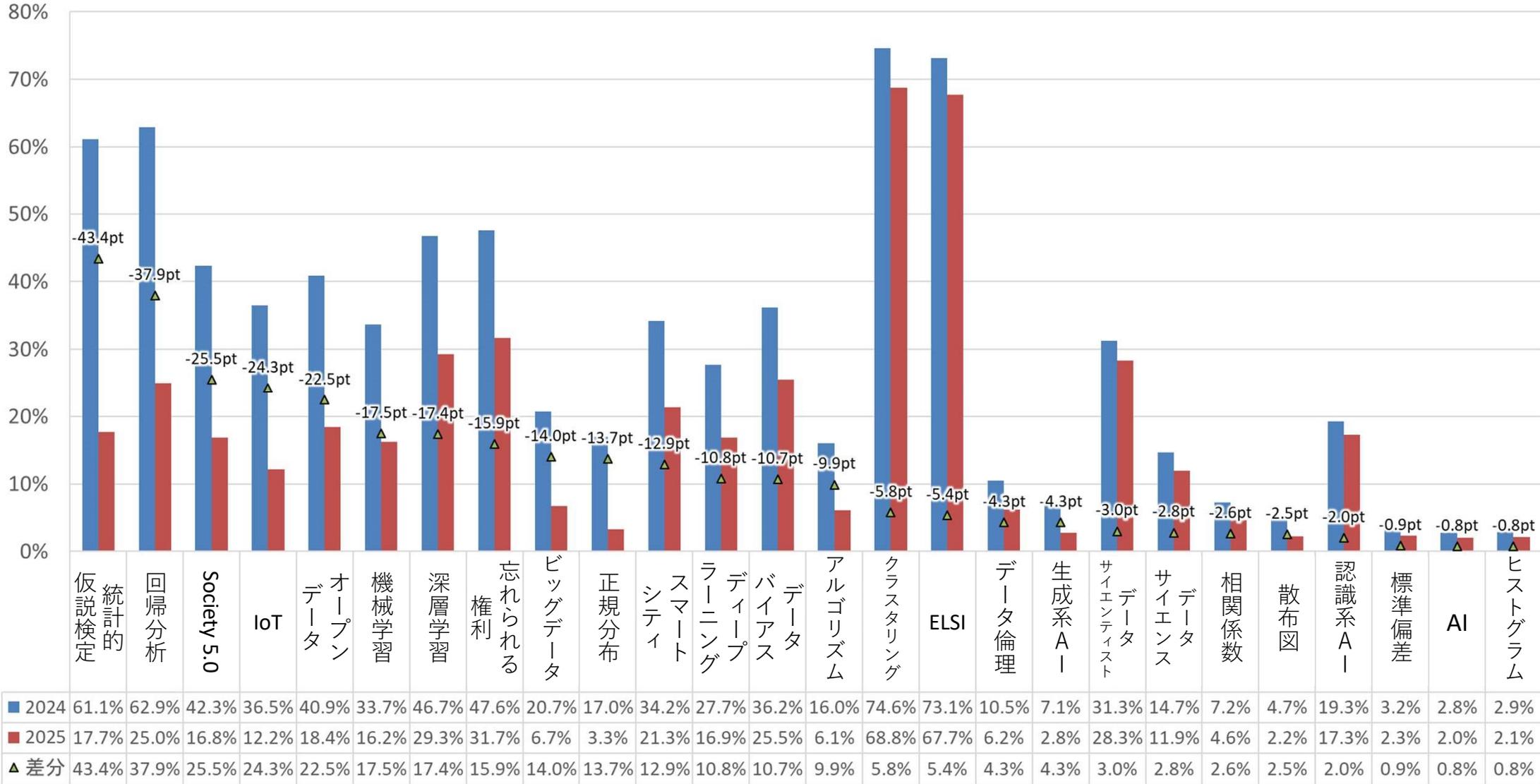
大学におけるデジタル人材育成の強化+地元企業との連携+地元就職のサポート = **企業のDX推進、地域経済の強化** ⇒ **大学の価値創出**

(参考) 香川大学における数理・データサイエンス・AI教育プログラム : <https://www.kagawa-u.ac.jp/mmdsai/program/>

令和6年度大学・高専機能強化支援事業に採択されました : https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa_u_sce/news/news/31897/

香川大学「情報リテラシーB」授業前アンケート結果

Q.次の数理・データサイエンス・AIに関するキーワード群について、あなたの理解度に最も当てはまるものを選んでください。
各キーワードを「1.全く知らない」と答えた学生の割合（2024年度：1055名、2025年度：1010名）



マナビDX Quest



地域企業・産業のDXの実現に向け、ビジネスの現場における課題解決の
実践を通じた能力を磨く、デジタル推進人材育成プログラムです。

受講の4つのメリット

DXに必要なスキルを
トータルで学べる！

ビジネスも デジタルも！

ビジネス課題～デジタル課題まで
一気通貫で学習し、
DXに必要なスキルを学べる！

幅広いデジタル人材と
出会える！

つながりを 構築！

互いに学び合い・教え合うことで、
志を同じくする参加者との
つながりができる！

デジタル初心者・
経験者両方OK！

誰でも 学べる！

デジタル初心者・経験者
問わず参加できる！

デジタル技術の
活用OK！

実践的スキルが 学べる！

生成系AI等の技術を自由に
活用することで、変化に対応できる
実践的スキルを学べる！

オンライン
開催

DXを推進する考え方や
プロセスが学べる！



学びを深められる！
充実のプログラム

受講生84% 企業96%の満足度※！

累計約8,800名の受講生と約260社の協働企業が参加！※

※2024年度、ケーススタディ
教育プログラムの受講生満足
度は84%、地域企業協働プ
ログラムの受講生満足度は
84%、協働企業満足度は
96%

① ケーススタディ教育プログラム

- ・講師による座学ではなく、情報交換して
学び合い・教え合い、課題を解決する
PBL※を中心に据えたプログラム
- ・AIモデル構築やデータサイエンスの技術を
用いたDX変革の疑似体験ができる教材

多くの経験が
積める！

※PBL: Project-based Learning: プロジェクト型学習

② 地域企業協働プログラム

- チームで地域の中小企業等の経営陣・
担当者と協働し、デジタル技術を活用
する課題解決型プログラム

※参加要件及び期間はプログラムにより
異なります



DXの担い手になる！ 身につくスキル

身につくスキルは、
デジタルスキル標準
ver.1.2に準拠

課題発見・ゴール設定

仮説思考・論理的思考力

デジタル技術への理解・
ビジネスへ活かす力

コミュニケーション力

オープンバッジで発行する修了証にて、スキル標準で定められたスキルの習得が把握できる

プログラムの魅力

修了証

PBLや地域企業協働プ
ログラムを最後までや
り切った方には、活用
しやすいオープンバッジ
の形で修了証が発行さ
れます。

修了生コミュニティ

プログラム参加後にも学び合
いを継続していくための場と
して、参加年度を超えて修了
生が集う修了生コミュニティ
を設置し、情報交換や勉強会
を行っています。

誰でも
学べる！

受講要項

詳細は、下記URLサイトに
掲載。ご確認ください。

開催時期

① ケーススタディ
教育プログラム

例年 8月～11月頃

② 地域企業協働
プログラム

例年 11月～1月頃

受講対象

学生・社会人等

開催方法

オンライン

受講資格

データ処理の基礎的な理解があれば、
専門性やバックグラウンドは不問。



詳細はWEBサイトをチェック！

<https://dxq.manabi-dx.ipa.go.jp/>

マナビDX Quest

検索



修了生の声も是非ご覧ください！

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/manabi-dx-quest.html

NEDO 懸賞金活用型プログラム

GENIAC

PRIZE

想像し、解放し、創造する。

官・民・
安全性で
4つのテーマ

懸賞金総額

8億円

結果発表

2026年
3月末

Judge (他の審査者は懸賞広告を参照)

デジタル庁



主催：経済産業省/NEDO # GENIAC #GENIACPRIZE #NEDOChallenge



GENIAC-PRIZEは、生成AIの社会実装を目的に
経済産業省とNEDOが立ち上げたプロジェクトです。

生成AIによる解決が望まれるテーマに即した具体的なニーズに
基づく生成AIサービスを開発・実証・応募いただき、
審査を経て、成果に応じた懸賞金を授与します。

ユーザー
の
変革

国産基盤モデル等を活用した 社会課題解決AIエージェント開発

- 概要：製造業の暗黙知の形式知化/カスタマーサポートの生産性向上に資する国産基盤モデル等を活用したAIエージェントの開発、実証
- 懸賞金：1位5,000万円、2位4,000万円、3位3,000万円 他

高度な
情報探索

官公庁等における審査業務等の効率化

- 概要：官公庁の共通ニーズである審査業務（特許審査業務をモデルとする）効率化に資する生成AI開発
- 懸賞金：1位1億円、2位7,000万円、3位3,000万円 他

AI
セーフティ

生成AIの安全性確保に向けたリスク探索 及びリスク低減技術の開発

- 概要：生成AIの安全性に関わるリスクの特定と当該リスク低減技術の開発
- 懸賞金：1位7,000万円、2位5,000万円、3位3,000万円 他

お問い合わせ
geniac_prize@bcg.com



詳細はこちらから
<https://geniac-prize.nedo.go.jp/>